2021年度 総合研究所特別研究員 研究活動報告

氏名	肖 越
研究テーマ	初期浄土経典成立史の基礎研究―人間学としての浄土教
研究概要	〈無量寿経〉諸本の詳細に比較を吟味した上で、更にほかの浄土類の経典群を取り込んで文献学の視点から『大阿弥陀経』と『平等覚経』の成立の歴史的な背景を究明する。それに〈無量寿経〉とほかの浄土経典の成立関係を究明する。引き続き『大阿弥陀経』の英語訳注を行う。

1.研究活動の概要と研究成果	〈無量寿経〉古訳である『大阿弥陀経』と『平等覚経』のそれぞれの原始形態について究明した。**第一に、**梵本に比して『大阿弥陀経』は六波羅蜜菩薩行,往生思想を漢訳者が意図的に大幅修訂・付加したのである。漢訳者は、原典の偈文にあった重要な菩薩行・救済論を法蔵段に濃縮して、誓願文を含む全経に増広した。『大阿弥陀経』の原典は現存の梵本写本によく一致する。**第二に、**『平等覚経』の翻訳者は、『大阿弥陀経』の誓願文を参考にしながら法蔵段と誓願文（一部）を翻訳し直した。そして、三つの偈文を翻訳した。したがって『大阿弥陀経』の原典と同じように『平等覚経』の原典は現存の１２世紀に書写された梵本にほぼ一致すると判断する。即ち、二訳に見られる２４願の原典は、歴史に存在したことはない。**第三に、**いち早く３世紀頃『大阿弥陀経』の翻訳者は、菩薩思想・往生思想などの重要な大乗思想、阿弥陀仏の本願念仏救済思想を中心にして、浄土教の体系的な教理を一つの経典に見事にまとめた、という結論から、学界長年の謎を解明した。
2.学術論文・学会発表等	〔論文等〕 ①単「「初期無量寿経」の原典は何か？―菩薩思想と往生思想を中心に―」『印度學佛教學研究』70(2)、pp.152～156、日本印度学仏教学会（2022年3月、査読有） 〔発表〕 ①単「「初期無量寿経」の原典は何か？―菩薩思想と往生思想を中心に―」第72回日本印度学仏教学会学術大会（2021年9月5日、オンライン（リモート）による開催） ②単「漢訳〈無量寿経〉諸本のタイトルについて」武蔵野大学仏教文化研究所研究会（2021年12月10日オンライン（リモート）による開催）
3.今後の課題	①これまで蓄積してきた業績を纏めて問題点を一々剔出し、文献・歴史・思想・翻訳という多方面から複数的な専門的な単著にまとめる。②最近に日本国外から注目されている学界初の『大阿弥陀経』の英語訳の研究を完成する。作業に従って、語彙、語法の研究を纏める。③仏教文献学の限界・文理を乗り越え、現代生命科学・心理学の研究成果を積極的に取り込んで、人生１００年時代にむけ「人間学としての浄土教」という研究課題の理論・実践体系化にする。研究成果を中国、日本語、英語で公表する。